

## 卒業論文の要旨

論文題目	眼球運動のカオス解析による抑うつ状態推定可能性の検討
氏名	吉田翔悟
メジャー	心理学
<p>(要旨)</p> <p>近年、日本人のうつ病の増加が問題となっているが、うつ病の診断は医師の臨床的判断に依存しており、誤診の危険性がある。そこで、生体信号を用いて客観的にうつ病を評価することで、うつ病の予防や治療に役立つと考えられる。</p> <p>本研究の目的は、眼球運動のLLE(Largest Lyapunov Exponent:カオス性の指標)と指尖脈波のLLE、および両者の同期の程度と抑うつ状態の関連性を検討することである。</p> <p>予備調査として、大学生 289 名にスクリーニングを行い、その中から、抑うつ高群 19 名、抑うつ低群 17 名を実験協力者とした。</p> <p>本実験では、実験協力者の安静時の眼球運動と指尖脈波を測定し、カオス解析を行い両者のLLEとLLEのSD、および両者の相互相関関数を算出した。</p> <p>その結果、抑うつが高いほど眼球運動と指尖脈波のLLE、SD、および相互相関関数は高くなる傾向があることが明らかとなった。</p> <p>このことから、生体信号のカオス解析から抑うつ状態の推定が可能であることが示唆された。ただし、更なる知見の蓄積が必要である。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>眼球運動のカオスの研究はあまり行われておらず、心理的現象である抑うつとの関連性に至っては先行研究が見当たらなかった。抑うつやPTSDなどに眼球運動を用いたEMDR(Eye Movement Desensitization and Reprocessing)という治療法もあり、眼球運動は精神疾患・障害との関連性があることが明らかとなっている。本研究の結果から、眼球運動のカオス性と精神症状の関連性が示唆されると思われる。とても新奇性の高い研究になっていると思われ、高く評価したい。</p>	

